

(平成 30 年 12 月試験研究業務月報)

課題名：宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの  
継承発展 (2) 宇治茶の優れた伝統技術を活かす省力的新技術の開発

研 究

## 自然仕立て園における省力防除技術の開発

宇治茶を代表する高品質な玉露・てん茶は手摘みで収穫されており、自然仕立て園<sup>※1</sup>で生産されています。自然仕立て園での防除作業は、地面に近い葉から長く伸びた枝の上の葉まで薬液が付着するように、長い薬液散布用の竿を上下しながら、うねの片側ずつ散布する必要があり、大きな労力がかかっています。そこで、当所では、うねの両側の茶樹全体を同時に防除することで、防除作業の省力化ができる自然仕立て用防除機の開発に取り組んでいます。

今年度は、施設園芸で作業省力化の実績がある防除機を活用して、茶樹の枝が最も長くなる生育停止期以降の 12 月 18 日に、走行性と感水試験紙を利用した散布の均一性を確認しました。その結果、基本仕様の 2 輪よりも 1 輪の方が走行安定性が高まること、屋内での使用を想定した防除機のため、風により薬液付着状況が不均一になることが明らかになりました。

今後、薬液付着状況の調査を進め、自然仕立て園での防除に適する部品・設定条件を検討し、新たな防除機の試作を行います。

- ※1 自然仕立て園…機械による摘採がしやすいように半円筒状に整えられた機械摘み仕立て園と異なり、チャの自然な樹形を活かした茶園
- ※2 感水試験紙の設置…水分により色が変わる試験紙を水平と垂直にした板の両面に設置することで、葉の角度・表裏による付着の違いを見る



今回用いた施設園芸用防除機  
うねの両側の地面付近から 1.5 m 程度の  
高さまでを同時に薬液散布可能



感水試験紙の設置<sup>※2</sup>